

カキ生育情報

千葉県
平成21年8月号

【7月の気象】

平均気温は平年に比べ第2、第4半旬では0.2~0.3 高かったが、第1、第3、第5、第6半旬では0.3~0.4 低かった。特に第5半旬は平年より1.3低かった。月平均気温は24.0 で平年より0.3 低かった。

降水量は第5半旬で平年に比べ大幅に多く、第5半旬を除いて平年より少なく、第2、3半旬では0~8mmであった。月合計降水量は126mmで平年よりも62mm(33%)少なかった。本年の関東地方の梅雨明けは7月14日頃で、平年よりも6日、昨年よりも5日早かった。

日照時間は、第3半旬で平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計日照時間は126時間で平年に比べ49時間(28%)少なかった。

表1 平成21年7月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温()		降水量(mm)		日照時間(hr)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	1	22.2	22.6	10	36	7	21
	2	23.6	23.3	8	43	14	23
	3	24.0	24.3	0	37	36	25
	4	24.6	24.4	21	23	24	28
	5	23.8	25.1	64	24	14	33
	6	25.3	25.7	24	23	31	44
合計/平均		24.0	24.3	126	188	126	175

【樹および果実の生育】

暖地園芸研究所では、西村早生、松本早生富有、富有の横径は昨年よりも大きく、平年並か平年よりもやや小さかった。西村早生でアザミウマの発生が散見されるが、他の2品種では病害虫の発生はほとんどみられず、果実は順調に生育している。

いすみ市では、西村早生の果実の発育は昨年よりも大きかった。また目立った病害虫は発生しておらず、順調に生育している。

市原市では、松本早生富有の果実の発育は昨年よりも大きく、順調であった。またカキノヘタムシガの発生は少なく、アザミウマの発生が散見された。

表2 果実の発育(平成21年7月30日)

品種	調査地	横径 (cm)			縦径 (cm)			果径指数		
		本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
西村早生	いすみ市	5.3	4.7	-	4.1	3.3	-	1.30	1.42	-
	暖地園研	5.4	5.1	5.4	4.2	3.9	4.0	1.28	1.31	1.33
松本早生富有	市原市	5.5	5.0	-	3.8	3.4	-	1.45	1.47	-
	暖地園研	5.4	5.3	5.6	4.1	4.0	4.1	1.32	1.32	1.36
富有	暖地園研	5.5	5.3	5.7	4.4	4.1	4.3	1.26	1.32	1.33

注1) 平年値は、暖地園芸研究所における平成2年から19年間の平均値

【8～9月の作業の要点】

かん水

高温及び過乾燥が長期間続くと、根の生育が停止して果実肥大が抑えられ、熟期の遅れ、着色不良、糖度不足、翌年の着花量不足などが生ずるので、乾きやすい園、作土の浅い園では早め、多めにかん水を行いたい。

枝管理

2次伸長枝は、8月下旬～9月上旬頃に、充実したものを除き全て摘除する。秋雨は汚損果の発生を助長するので果実に重なる葉や枝は摘除し、地面近くに垂れ下がった側枝などは、適宜、枝支えやつり上げを行う。

摘果

西村早生では、8月下旬頃(着色開始期)から仕上げ摘果を行う。果頂部が凹んだ果実や不整形の果実、着色が遅いか着色ムラのある果実は、渋果の恐れがあるので摘果する。

収穫

9月中旬頃から西村早生の収穫が始まるが、適熟果の収穫に努めるとともに、ほんの小さな傷でも黒変しやすいので、果実をていねいに扱うことを心がけたい。また、渋果の混入を防ぐために、渋果判定機による選別または脱渋を必ず行う。

病害虫防除

気温が下がり秋雨が始まると、うどんこ病や落葉病、炭疽病の発生が多くなる。防除適期は8月下旬～9月上旬である。

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、フジコナカイガラムシの防除のため、バンド誘殺を行う。また、カキノヘタムシガの被害果は、焼却するか地中に埋没する。

これらの防除は千葉県農作物病害虫防除指針に基づいて行う。

《生育情報の問い合わせ先》

千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所果樹研究室 TEL 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもごらんいただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>